
第6章

ま と め

6.1 成果

本研究で得られた知見とその評価を次のようにまとめた。

(1) 学校グループウェアの機能を3つのフェーズに分類した。

学習支援機能

校務支援機能

運用支援機能

さらに支援すべき学習活動を3つの要素に分類した。

探求 (Portfolio) / 評価 (Assessment) / 交流 (Communication)

このそれぞれを支援し、また各機能の結びつきを検討することにより、学校グループウェア設計にあたっての枠組みが整理できた。

(2) 学校グループウェア「こあっと」を開発した

学校全体の情報の共有化を促進し、グループ学習を支援する学校グループウェアとして「こあっと」は次のような特徴を備えた。

学習支援機能と校務支援機能が統一のインターフェイスで実現されている

→ 操作性の簡易さ。学校全体での情報の共有化

コミュニケーションのための多くのツールが用意されている

ユーザー相互の情報の共有とリンクが重視されている

個人のアイデアからグループ作品へと、アイデアの横断的利用を支援している

→ 情報の活用、流通範囲の拡大

学習者の相互評価、自己評価のための評価機能の充実が図られている

→ 自らを振り返るためのデジタルポートフォリオの作成

(3) 学校現場での運用を試行した

5章で示した大学での総合課題演習の授業での実践，中学校での日常的なコミュニケーション手段としての利用をはじめ，現在20を超える小中学校，養護学校で実際に運用されている。本システムを公開したwebには連日感想や要望が寄せられている。また，新潟県長岡市教育センターでは教員向け研修として「こあっと」を利用した学校グループウェアの実習研修のプログラムを組んでいる。

(4) グループウェア利用の効果について有効性を示すことができた

グループ活動においては，グループウェアを利用した活動の有効性がアンケートによって明らかになった。

6.2 今後の課題

学校グループウェアとして開発した「こあっと」は教師と生徒とをつなぐシステムとして一定の評価を得ることができた。しかし，学校はさらに多くの要素を含んでいる。学校で生活するのは生徒と教師だけでなく，事務職員やPTAなど，まだまだ考慮しなければならない人たちが多く存在している。今後はさらに視野を広げた学校グループウェアの設計を目指したい。

さらに，区市レベルでの地域イントラの構想も現実のものになりつつある。地域の学校同士が情報を共有するメリットは大きいが，セキュリティ面などでの課題もある。学校グループウェアは今後地域イントラとの連携や機能拡張が必要となる。

「こあっと」をwebに公開することによって実際に運用している学校からはさらなる機能追加の要望が出ている。文書検索機能や生徒カルテ，時間割変更掲示板など現場ならではの声を反映し，より使いやすいシステムを目指す。

6.3 おわりに

「学校グループウェア」の研究を通して見えてきたことは、学校という場の持つ特殊性であった。教師と生徒という当たり前に思っていた構成が、同じ場において別の目的を持って存在していることに改めて気づいた。また、一方で同じ目的達成のために異なる手段を用いて取り組んでいる様子が浮かび上がった。

学校がネットワークを組み、それに応じた情報活用環境を構築することで、多層的な構造を成す学校という組織が一つに融合する可能性を確信した。学校グループウェアは学校内及び学校間、さらに地域との情報共有のためには不可欠なものとなるだろう。

「こあっと」システムは学校グループウェアデザインの一つの試論である。学校は単なる学習だけの場ではなく、もちろん単なる効率優先の場でもない。このことを考慮した学校グループウェアを現場は待ち望んでいる。